

平成27年4月20日発行  
第92号

発行 後援会  
印南 宏  
発行責任者 印南 宏



満開の桜も葉桜へ、季節はまさに春本番。平和台の皆さん、いかがお過ごしでしょうか！春は出会いと別れの季節、人生そのものです。あたたかくなってきた今、大いに外に出掛け、自然にふれたいものにムチ打って、外に積極的に汗を流したいと思っています。

### 統一地方選挙の年

二〇一五年は四年に一度の統一地方選挙の年です。我孫子市は四月に千葉県議会議員選挙(定数二名)、十一月には我孫子市議会議員選挙が行われます。しかし、今年一月十八日に行われた我孫子市長選挙は三十二・五二%で過去最低(前回二〇一一年は四十五・六〇%)を記録、我孫子市長選挙に併せて実施された我孫子市議会議員の補欠選挙(定数二名)はなんと無投票当選となっていました。近隣の市議会議員選挙の投票率でも松戸市議会議員選挙(平成二十六年十一月十六日投票率)三十七・七四%、八千代市議会議員選挙(平成二十六年

年十二月二十一日投票率)三十九・三八%といずれも三十%台の過去最低を記録、十人の有権者の内、三人余りしか投票に行っていないという厳しい現実があります。四月十二日、投票された千葉県議会議員選挙、我孫子市の投票率は三十五・四八%と前回より五%以上の大幅なダウンとなっていました。

### 低投票率の理由

低投票率や無投票になった理由は、選ばれる側の政党や候補者が魅力ある論戦を繰り広げる努力が足りないことや投票する有権者側も選挙権の重みを認識することができないことが主な要因だと思えます。民主主義の世の中、誰かが政治を担っていかねばなりません。来年度は公選法の見直しなどで、選挙権年齢が十八歳に引き下げが行われようとしている中、若い世代の低投票率対策は喫緊の重要課題と考えています。昨今の投票率の低下は民主主義の基盤をも大きく揺るがしています。

### 市制施行四十五周年

そんな中、我孫子市は市制施行日である七月一日に市制四十五周年の記念式典を行います。この他にも、記念切手シート、の発行、ジャパンバードフェスティバルでの記念企画など、様々な事業を実施す

る予定となっています。また、今年には戦後七十年、我孫子市平和都市宣言から三十年の節目の年となるため、平和記念事業を拡大して実施されます。昨今の海外における悲しい事件や、不穏な動きなどを見るにつれ、私たちは平和の尊さについて考え続け、平和で安心・安全に暮らしていける世の中にしていかねばなりません。強く感じています。

### 三月定例市議会

三月定例市議会が終了しました。平成二十七年一般会計当初予算案(三百八十五億円、前年度比五・五%増)や県内で二番目の制定市となる公契約条例(労働者の最低賃金の補償を図ることで公共工事の質の向上を目指す)や東日本大震災からの復興事業として、液化化被害を受けた布佐東部地区に復興のシンボルとなる「復興支援センター」の設置、市内全小中学校十九校への空調設備導入(平成二十七年年度は全中学校へエアコン設置)平成二十八年度完了を目指している新木駅舎の橋上化とバリアフリー化、福祉施設「こども発達センター」敷地内への新施設整備、新私立保育園(我孫子地区と天王台地区)設置補助、福島第一原発事故の賠償請求にかかわる原子力損害賠償紛争解決センターへの和解仲介申し立て案など三十七議案を可決し閉

会しました。

### 請願・陳情関係

・慰安婦問題に関する適切な対応を求める意見書の提出を求める請願  
・原発再稼働に対する意見書を政府に提出することを求める請願  
・労働環境の低下を招きうる労働者保護ルール改正方針に対する意見書」採択を求める請願  
※印南は労働者保護ルール改正方針に対する意見書が採択されるように全力を尽くしました。



三月議会 主な争点

人口減少問題（定住化促進・少子化対策）、公契約条例の一部改正、地方創生交付金の活用（30%プレミアム付き商品券）、公共施設の老朽化と公共施設等総合管理計画の策定、三市へ高濃度焼却灰持ち帰りの実現と施設撤去、手賀沼の底土高濃度問題、県立手賀沼親水広場委譲（農産物直売所の建設）、正副議長選挙などでした。

「あびこ未来」(印南が代表を務める会派)の代表質問・個人質問

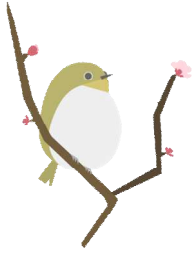
●代表質問（坂巻議員）

- 一．市政運営・財政
  - 二．社会保障・福祉
  - 三．環境経済
- 会派全員で意見を持ち寄り、代表質問を作成しました。

●個人質問に印南が登壇！

- 一．産業振興（企業立地と住工混在解消）
  - 二．ふるさと納税と地域経済の活性化について
- 新年度予算を審査する予算審査特別委員は会派を代表して印南が担当、三日間にわたって慎重に審査を行いました。

《詳細は議会だより、市議会HPの録画等でいつでもみることが出来ます》  
http://www.discussvision.net/abikosi/2.html



一時保管の放射性灰、三市持ち帰り完了

千葉県は三月二十四日、手賀沼終末処理場（我孫子・印西市境）に一時保管されていた、汚染焼却灰計約五百二十六トンの排出元三市（柏・松戸・流山）による持ち帰り作業が完了したと発表した。国による最終処分場の候補地選定は難航し、千葉県は三市に対して期限の三月末までに持ち帰るよう要請。松戸市が一月十四日、流山市が二月二十七日に既に搬出作業を終え、最後に残った、柏市が二十四日に持ち帰り作業を終了し、これで一時保管していた指定廃棄物の持ち帰りはすべて完了した。

しかし、住民が灰の搬出とともに、一時保管用テナント倉庫九棟の解体など千葉県に求めている現状回復措置は四月以降となる見通しとなっている。また、千葉県は今後も、最終処分場の早期設置を国に強く求めている。

公契約条例案が可決成立！野田市に次いで、県内二市

我孫子市議会は、市が発注する公共工事の受注業者に対し、従業員に一定額以上の賃金を支払うことを定めた公契約条例案を全会一致で可決しました。条例は四月に施行、千葉県内の制定では、二〇〇九年（平成二十一年）の野田市に続く二市目。労働者待遇を改善することで工事自体の質を向上させ、地域経済の活性化につなげる

狙いがこの条例の目的となっています。この条例の対象は一億円以上の建設工事や二千万円以上の業務委託など、違反者には正命令や立ち入り検査が可能で、命令に従わない場合、契約解除や業者名を公表できるようなっています。条例が適用されるのは、今年十月一日以降に締結された契約となっています。

（ポイント）市議会初日に提出された条例案では、適用範囲は予定価格五千万円以上の工事又は製造の請負契約、その他、予定価格が一千万円以上の業務委託となっていました。審議する過程で与党議員から修正意見が相次ぎ、市長は見直しを表明、市議会最終日に適用範囲が修正されて可決成立しました。

「あびこ未来」が我孫子市は！

～印南の視点～ ■手賀沼親水広場（含む水の館）の今後

千葉県の手賀沼親水広場を我孫子市に譲渡する手続きは今年、一月十三日に県有財産譲渡申請を我孫子市から県知事へ提出、二月三日に移譲に関わる確認書が県の環境生活部長と我孫子市長との間で交わされました。二月県議会の可決を条件に七月一日付で我孫子市に移譲することを確認され、翌日の二月四日には千葉県の環境生活部長から市長に県有財産処分の審議結果が届き、特別譲渡が確定しました。

手賀沼親水広場は今年六月に千葉県と譲渡契約を結ぶと名実共に七月一日から我孫子市の公共施設となります。今後は県から移譲を受けたことを後悔しないようにメリットを生む施設として入館者を増やすこと、市民に喜ばれる生まれ変わった施設になることなど重い責任が我孫子市には課せられこれになりす。

私は早急な手賀沼親水広場の市への受け入れは反対の立場で今日まで意見反映に努めてきましたが時の流れは、後戻りできない状態になってきました。より良い施設にしなければならぬという前向きな立場で提言をしていかなければとまらないと思っています。

我孫子市はこの手賀沼親水広場を我孫子市民にメリットを生む施設にしていく責任があります。手賀沼親水広場は手賀沼の浄化に対する理解を深める場として、水質保全啓発が主な目的ですが、今後は我孫子市の重要な財産として、市の活性化策・保管機能の充実を目的に「農産物直売所」や「飲食オープンカフェ施設の設置」など交流や賑わいが創出できるかが重要なポイントとなってきます。今後の手賀沼親水広場をどのように活用していくのか、近くに位置する「しようなん道の駅」との競合等を考慮し、市が作成した「手賀沼親水広場等活用計画」の確実な実施が県から移譲を受けた施設としての成否を大きく分けることとなります。



**住工混在解消策(我孫子市工場集団化事業)の推進 個人質問の抜粋**

印南：住工混在解消に必要な市内対象の企業数は四十七社、その内、移転希望は九社となり、その後、四社が移転を辞退、今年一月に入り、移転に係る費用の不安から、さらに一社が辞退、現在四社となつてしまつた。四社で住工混在解消効果が得られると考えられるのか？

私は住工混在解消事業の遂行には、一定の見極めのルールづくりが必要だと考えている。住工混在解消を求めて、四社で工場集団化事業を進めていくのか、それとも、やめるのか、進退を早期に判断するルールづくりを行う必要があるのではないか？

市長：現時点では事業の進退を判断するための目標値や判断する目安はない。効果や目標について、四社でも住環境の改善、周辺住民の積年の悩みが解消されるとともに

に移転事業者の事業拡大に伴う雇用の拡大や税収、地域経済の活性化につながるものと期待している。現在も市内の住宅地に工場などが点在し、三十年以上にもわたり、住工混在の問題となつている地域を引き続き対象事業者へ協力を求めながら、周辺住民にとつても安心で安全で暮らしやすい、良好な住環境をめざし、早期解決に向け、一歩ずつ前進していくことが重要だ。

そのため、我孫子市工場集団化事業については移転を希望している四社でも事業化を進めていく方針だ。今後、庁内組織に財政シミュレーションの検証や必要面積に応じ、区画を変更した新たな土地利用計画案に基づき、財政状況を踏まえながら実施時期などについて、慎重に検討したうえで、今後の地権者との本格的な用地交渉に向け取り組んでいきたい。

**宏はこう考える！ ふるさと納税と地域経済活性化への取り組み**

自治体に寄付をすると税金が控除される「ふるさと納税」は二〇〇八年にスタートしました。名前に日本人の好きな「ふるさと」という冠は付いてはいますが、その実態は、子どもの頃に生まれ育った故郷に「税金」を納めるわけではありません。その多くは全国の地方自治体に寄付を行い、その見返りに様々な地方特産の牛肉や地酒、地魚の詰め合わせなど中にはパソコン・タブレットなど、豪華な景品をもらえるシステムとなつ

ています。当初、ふるさと納税を発足させた、目的を今や完全に逸脱して景品のエスカレート化にシフトしているように思われます。私は「ふるさと納税」の本来の主旨は、「生まれ育つたふるさとを支えてくれたふるさと、一人前にしてくれたふるさとへの税制を通じて恩返し、地元・ふるさとに貢献すること」それが、ふるさと納税の主旨だと理解をしています。執行部の答弁では「ふるさと納税」で儲かることはないと考えているようですが、まちの特産品、我孫子で言う「ふるさと産品」の販売増、PRにつながるものと考えられるというお答えでした。

私はふるさと納税の制度そのものが良し悪しは別にして、ふるさと納税は東葛の近隣市、流山市でも一万円以上の寄付をした方に地元発祥の調味料「白みりん」を贈ることや、「ふるさと納税市内特産品贈呈事業」を実施しています。その他、来年春オープン予定の流山市民総合体育館の設備充実を目的に五万円以上の寄付をした者にはその人の名前を刻んだ体育館入口のプレートに名前を刻む特典など、寄付を誘導する施策を積極的に取り組んでいます。

私はこのような特産品のPR、積極的な寄付の誘導施策の取り組みについて我孫子市としても早急に対策を検討し、地域経済の活性化につながる手法・戦術を整えるべきだと提案しました。

**印南 宏 現在の主な役職**

- 我孫子市議会**
- 環境都市常任委員
- 議会改革特別委員会 副委員長
- 決算審査特別委員会 副委員長
- 会派「あびこ未来」代表
- 成田線を便利にする議員の会 副会長
- 連合千葉関係**
- 連合千葉議員団会議 前幹事長
- 電機連合関係**
- 電機連合議員団会議 ブロック幹事
- その他**
- 我孫子市サッカー協会 顧問
- 我孫子市ソフトボール連盟顧問
- 新聞奨学生OB会相談役(前会長)など



平和台雑感

統一地方選挙の前半戦、四月十二日に千葉県議選が投票された。県議選の投票率は、これまで最も低かった四年前(四十・〇四%)全国ワースト二位をさらに下回り、全国でワースト一位の三十七・〇一%へ、史上初の三十%台を記録した。我孫子市も全国平均を下回り、三十五・四八%と前回からマイナス五・四九%と大幅にダウンした。さらに残念なのは自民一強の県議会の構図は変わることなく、益々、垂水切った緊張感のない、県政が続く。県議定数の削減「ゼロ」は、もちろん、昨年末の期末手当の増額などお手盛りの県政が続き、これから四年間、議会改革は全く進むことはないだろう。千葉県の二十七年度一般会計予算は一兆七千億円、我孫子市の一般会計予算は三百八十五億円。約四十四倍の予算を持つ千葉県、この膨大な予算をチェックする県議会のあり方が今、問われている。我孫子市から行財政・議会改革の狼煙を上げるべく、辛口の議員を県政に送りたかったのだが、それを果たすことができなかった。力を不足を猛省している。◆現代は超高齢化社会の到来と人口減少という二つの大波がまるで津波のよう

に恐ろしいスピードで押し寄せてくる時代である。我孫子市のまちづくりは、まさに、これからが正念場を迎えようとしている。しかし、残念ながら、当市が置かれている財政状況や持続可能な市政運営という視点で考えると、市民の皆さんや市職員、市議会も本日の意味で、強い危機感を持っているのか、暮らして仕事をしているのか、我孫子市という自治体が、今まさに「崖淵」に立たされているという強い危機感を共有できているのか、など甘さがあるのではないかと、そんな気持ちがあるのではないかと、◆布佐南小の卒業式。卒業証書を受け取った卒業生の一人ひとりがお母さんなど参列者の皆さんやお母さんなど参列者の皆さんに向かっている、中学生になったら、将来の夢についての決意を述べるシーンがある。野球やサッカー、バスケットなど中学校での部活動に頑張る旨の決意が多いのだが、中には数学や英語に一生懸命に取り組みたい。お父さんと同じ職業、消防士になるのが夢、JRに入ってから電車の運転手、公務員や保育士になりたいなど将来、働きたい職種を述べる子も多い。残念ながら、政治を志し、国会議員になり、末は総理大臣になりたいなどと言う発言は無かった。政治には無関係大人の世界のものと感じているからだろうか。十八歳の選挙権は来年度から実施される。政治の在り方が問われている。◆平成二十三年度三月二十六日(木)より布佐地区の浸水被害を解消するために工事を進めていた「布佐ポンプ場」が完成、このポンプ場は排水能力が毎分七百リットルで計画され、第一期分として毎分五百リットルのポンプが整備された。現在の布佐南立暫定

ポンプ場と比較すると約七倍の排水能力を持つことになる。これにより、一昨年、十月十五日～十六日にかけて市内を襲った台風二十六号のようなゲリラ的降雨に対しても排水が可能となる。今回の布佐ポンプ場の整備で排水能力のアップは図ることができたが、今後は流域の地盤沈下等の解析、幹線網の整備を進め、水害の無い街づくりを目指して一層の整備を進めていかなければならない。◆布佐中学校吹奏楽部第六回「春のコンサート」に出掛けた。今年も立ち見が出るほど、多くのファンが布佐中体育館に集っていた。このコンサートで第二回より続けているチャリティー、昨年のコンサートでは総額二十二万七千八百三十八円のご寄附が集まり、三・一一大震災時、液状化の被害で苦しんだ地元の我孫子市復興対策室や津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市の学校復興基金に送付している。春のコンサートについて、現在の布佐中学校吹奏楽部の部長である「室 優里奈さん」の挨拶の言葉を借りると『私たちの演奏が少しでも世の中のためになれたらと思います、チャリティーコンサートを続けていきます。我孫子市の震災復興のために、そして津波で破壊された陸前高田の中学校がいつの日か新たに建設される日のために。音楽で地域そして世の中と繋がっていくことが私たちの基本姿勢です。今年も音楽で元気を届けます！今日の私たちの演奏に見合った金額を寄付金としていただけたなら、これを陸前高田市小中

印南 宏後援会  
〒270-1198 我孫子市日の出 1131  
(日本電気労働組合我孫子支部内)  
Tel 7184-2860  
印南 宏 自宅  
布佐平和台 7-1-18  
Tel 7189-1598  
E-メール hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp  
HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/  
ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/



学校復興基金、そして我孫子市復興対策室にお届けします』  
今年もゲストに湖北台中出身のソプラノ歌手、吉田真澄さん、地元布佐小・布佐南小吹奏楽部も参加して、確実に力を付けた演奏の数々を披露してくれた。すばらしい演奏に心からありがとう。  
宏